

令和7年度第2回安城市スポーツ推進審議会 議事録要旨

日 時	令和8年2月17日（火）午後2時～3時10分
場 所	東祥アリーナ安城 3階 第4会議室
出席委員	香村恵介委員、深谷真弘委員、野村富雄委員、松尾和子委員、梅村まち子委員、大見翔委員、太田妙子委員、杉浦誠委員、崔仁美委員
欠席委員	香村直廣委員
事務局出席者	教育長（石川）、生涯学習部長（加藤）、スポーツ課長（松元）、スポーツ課長補佐（岩井）、アジア競技大会推進係長（河村）、スポーツ振興係長（近藤）、スポーツ振興係主査（夏目）
次 第	<p>1 市民憲章唱和</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>（1）第2次スポーツ振興計画改訂版に係る令和7年度事業実績について</p> <p>ア 個別事業の実績について</p> <p>イ 目標値の達成状況について</p> <p>（2）安城市生涯学習推進計画（生涯学習推・スポーツ）に係る令和8年度事業計画（案）について</p> <p>4 ワークショップ</p> <p>（1）テーマ（内容）</p> <p>ア 次世代を担う子どもの学び・スポーツの推進【重点施策】</p> <p>イ 地域や学校、多様な主体との連携【重点施策】</p> <p>（2）発表</p>

※市ホームページで公開する際は、委員名は公表します。

1 市民憲章唱和

2 あいさつ

石川教育長

香村恵介会長（会議時間が限られた中で多くの意見を聞くため、発言時間は1分程度、様々な知見を持った方が集まる貴重な機会のため、忌憚のない意見をお願いします。）

3 議題

（1）第2次スポーツ振興計画改訂版に係る令和7年度事業実績について

(香村恵介会長)

資料の内容に関する事前意見や事前質問はないと事務局から聞いていますが、議題1について新たに追加意見や質問はありますか。

### 【全委員了承】

## (2) 安城市生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）に係る令和8年度事業計画（案）について

【事務局説明】資料P46～47

### 【質疑応答】

(香村恵介会長)

全ての市立中学校で空調設備の設置が進められていると思いますが、小学校や高校はどのような状況ですか。

(事務局)

高校は管轄外となるため回答し兼ねますが、小学校については、中学校の空調設備の導入状況を見ながら進めていき、その翌年から3年に渡って空調設備が導入できるよう計画しています。

### 【全委員了承】

## 4 ワークショップ

【事務局説明】資料P46～47（重点施策の取組みについて説明）

（重点施策の取組みは3つあるが、事務局・会長・副会長で事前に協議し、本市が安城子ども BOOSTERS として「子ども」を応援していることや、2028年に完成予定の「三河安城交流拠点・アリーナ」を踏まえ、多様な主体と連携することでスポーツチームをより一層盛り上げる取組みの提案をしてもらいたいため、今回は下記2つをワークショップのテーマとした。）

(香村恵介会長)

安城市生涯学習推進計画（生涯学習・スポーツ）で重点施策としている（1）「次世代を担う子どもの学び・スポーツの推進」と（2）「地域や学校、多様な主体との連携」について、ワークショップ形式により事務局だけでは気づきにくい意見や提案を挙げてください。

（1）のグループは、子どもが継続的にスポーツに取り組める環境を作るために何をすべきかを、（2）のグループは、プロスポーツチームとの交流を通して、市民が「観戦したくなる」「体を動かしたくなる」きっかけをつくるには、どのような交流を設計すべきかを考え、アイデアを出してください。

ワークショップの流れは、まずは付箋にアイデアを記入、その後各委員が意見発表し、グループ内で整理・分類をしたあと、最後に各グループの発表をします。

## 【ワークショップの実施（25分）と発表（5分）】

### （1）「次世代を担う子どもの学び・スポーツの推進」について

（メンバー：香村恵介会長【発表者】、野村委員、大見委員、太田委員、事務局1名）

- ・すべての年代が手軽に実施できるラジオ体操を実施すべき。ラジオ体操の機会に合わせてスポーツの交流企画を実施している町内会もある。
- ・親が忙しく、負担が大きくなっているため、家庭に頼らない仕組みづくりが重要。
- ・公民館や町内会等を活用し、中学生や高校生、外部指導者などが教えに行くことができる仕組みがあると良い。
- ・身近な体験会での多様なきっかけづくりが重要。ニーズに対応した地域クラブやイベント、また未就学児でも参加できるような機会があると良い。
- ・競技志向のニーズもあるが、体験してみたいというニーズもある。身近な体験会でスポーツを始めるきっかけがあると良い。
- ・情報発信が重要。町内の回覧板以外に、LINEオープンチャットを活用した情報共有を始めた町内会もあるため、イベントの周知や情報共有に活用できると良い。

### （2）「地域や学校、多様な主体との連携」について

（メンバー：深谷副会長【発表者】、松尾委員、梅村委員、杉浦委員、崔委員、事務局1名）

- ・まずプロスポーツチームを知ってもらい、興味や関心を持ってもらうことが必要。
- ・知ってもらうアイデアとして、学校などと連携し、児童や生徒がチームや選手のことを調べたり、実際に選手取材し、自治体広報誌や新聞に掲載するなどの取り組みができると良い。広報に関する職業体験の側面もあり、重点施策である「学び×スポーツ」の取り組みにもなる。
- ・地域店や商店街とコラボグルメを作るなど、お店に行った方たちが自然と知るきっかけになると良い。
- ・プロスポーツ選手との交流や競技体験を通じ、選手や競技を身近に感じることをスポーツをする、みるにつなげると考える。
- ・身近に感じるアイデアとして、公民館や町内会などと連携し、地域のイベントにプロスポーツ選手が参加したり、「選手の講演会を聴く」、「選手の練習場所を見学する」などの取り組みができると良い。
- ・そもそもスポーツに興味のない方もいるため、地域団体や企業等と連携し、「スポーツ×食」など、スポーツと何かコラボができると良い（例えば、試合を観戦したら地域店の商品などをプレゼント、地域店の商品などを購入したら試合観戦の招待をするなど）。

## 【発表に対する意見】

（香村恵介会長）

（「地域や学校、多様な主体との連携」の発表を聞いて、）プロスポーツ選手の練習場へ生徒が取材へ行く、という形は面白いと思った。

（深谷副会長）

選手が普段練習している場所へ行くことは、一般の方々からすると特別感があり、面白い取組みだと考える。

（事務局）

（「次世代を担う子どもの学び・スポーツの推進」のワークショップを通して、）高校との連携が可能だとわかったため、今後前向きに取り組んでいきたい。

（事務局）

（「地域や学校、多様な主体との連携」のワークショップを通して、）プロスポーツチームの認知度を高められるよう、企業等と連携して試合観戦イベントなどの実施に取り組んでいきたい。

以上